

リハビリテーションカレッジ島根
学校関係者評価委員会
令和7年度

令和8年2月18日(水)
リハビリテーションカレッジ島根 会議室

リハビリテーションカレッジ島根 学校関係者評価委員会

日 時：令和 8 年 2 月 18 日(水) 18:00～19:00

場 所：リハビリテーションカレッジ島根 会議室

報告・検討事項

1. 自己評価報告書の結果について
2. 次回の開催について

1. 自己評価報告書について

学校職員が行った「自己評価報告書（別紙）」について報告を行い、委員からの質問や意見を聴取した。

[項目 1] 理念・目的・育成人材像について

概ね高い評価となった。

今後も本校のアドミッションポリシー、ディプロマポリシーに沿って学生教育を行っていく。

□委員からのコメント

特になし

[項目 2] 学校運営について

概ね高い評価となり、大きな問題はなかった。

□委員からのコメント

特になし

[項目 3] 教育活動について

- ・ 令和 6 年度の国家試験は 3 学科揃って合格率 100%を達成できた。令和 7 年度は前年度より厳しい状況が続いているが、最後まで合格率 100%を目指したい。
- ・ 実習地の確保が引き続き大きな問題として挙げられ、特に留学生の受入れ先確保には苦慮している。
- ・ 日々の学生指導に忙殺され、教員自らの教育・研究活動に手が回らない状況である。

□委員からのコメント

- ・ 3 学科 100%合格を継続して欲しい。難しい挑戦にはあるが期待したい。
- ・ 実習の受け入れは、法人グループに一括で依頼できないか？
→現在 1 法人と協力関係にあるが、まだ十分ではない。次年度以降も安定した実習地の獲得が課題となる。[教務部長：青木]

[項目 4] 学修成果について

就職活動は近年早期から取り組んでいる。早い時期からの情報提供、意識づけを行い、第一希望先への内定率向上を目指している。

□委員からのコメント

留学生の就職先はどのような感じか？
→令和 7 年度の 3 年生に留学生はいないが、これまでの傾向から都会志向は間違いない。
島根に残るケースは非常に少ない。[教務部長：青木]

[項目 5] 学生支援について

休退学者の防止に力を入れているが、今年度は特に留学生の休退学が多くなった。日本語能力や意欲が問題となるケースが多い。入試時点である程度の見極めが必要な状況である。

□委員からのコメント

- ・留学生の退学理由で多いものは？

→実際のところは進路変更と成績不振が多くなっている。[教務部長：青木]

[項目 6]教育環境について

概ね高い評価となった。

□委員からのコメント

特になし。

[項目 7]学生の募集と受け入れについて

3年連続で入学者数は増加していたが、令和8年度入学生は減少に転じた。令和8年度以降はしばらく就学支援新制度の対象校から外れるため、入学生の確保はより厳しくなる見込みである。留学生も一定数入るが、日本人入学生の確保が最重要である。

□委員からのコメント

- ・就学支援新制度の対象から外れる中で日本人学生を集めるための対策は講じているか？

→令和8年度4月の入学生は1,2年次の学費を50万円ずつ計100万円免除する制度を設けた。

これは大きな武器になると考える。[教務部長：青木]

[項目 8]財務について

安定した学生数の確保のためには引き続き入学生の増加、休退学者の防止が重要である。

□委員からのコメント

特になし。

[項目 9]法令等の遵守について

特に問題なし。

[項目 10]社会貢献・地域貢献について

令和6年度、7年度ともに多くの地域貢献活動を実施した。

特に小中高校生を対象とする出前授業や学校見学・体験会が好評であり、将来の入学生につながる期待もある。今後も力を入れたい。

□委員からのコメント

今後も継続してください。

2. 次回の開催について

次回は令和9年2月に開催予定。